

2025年度 全日空商事グループ連結業績ハイライト

1. 連結財務情報

〈 連結損益計算書 〉

(単位 : 百万円)	2025年3月期	2026年3月期	前期差
売上高	135,035	157,505	22,469
営業利益	4,709	7,429	2,719
営業外損益	1,424	2,309	884
経常利益	6,133	9,738	3,604
特別損益	8	-	△8
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,088	6,740	2,651

〈 連結貸借対照表 〉

(単位 : 百万円)	2025年3月末	2026年3月末	前期差
流動資産	53,242	63,906	10,664
固定資産	27,253	33,561	6,307
資産合計	80,495	97,467	16,972
流動負債	27,743	34,388	6,645
固定負債	10,728	12,086	1,358
純資産	42,024	50,992	8,967
負債純資産合計	80,495	97,467	16,972

2. 連結決算概況

- 当該事業年度における我が国の経済は、物価と賃金の好循環を背景に緩やかな回復基調を示しました。一方で、米国の通商政策の影響や年度末にかけての中東情勢の悪化等、景気の先行き不透明感を強める状況となりました。このような状況下、**全日空商事グループ**は「**持続可能な成長と成長軌道への確実な回帰**」を目指し、**経営資源の選択と集中の推進、組織の枠を超えた横串の強化や外部パートナーの活用**を戦略の柱として、**グループ外収益のさらなる拡大**に努めました。
- その結果、全日空商事グループ連結**営業利益は過去最高益**となり、営業外収益として米国全日空商事での持分利益を計上し、**経常利益・当期純利益**においても3年連続で**過去最高益を更新**しました。
- 観光土産品の企画・製造・卸売を行う**FUJISEY**は、大阪・関西万博向け商材が好調に推移したことに加え、国内観光客やインバウンド客の購買需要を着実に取り込んだことにより**過去最高益を更新**し、グループの収益を牽引しました。**アビエーション事業**においても、航空貨物検査方法の指針変更に伴い、物流会社向けX線検査装置の納入が増加し、大幅な**増収増益**となりました。
- **電子(半導体)事業**は、当社の主要マーケットであるパワー半導体分野の需要は微増に留まる中でも、先行投資をしてきた製品の量産開始や増産により**増収増益**、総合免税店「**ANA DUTY FREE SHOP**」を成田空港と羽田空港で運営する**全日空商事デューティーフリー**は、各空港の顧客ニーズに即した戦略的な販売施策により購買需要を着実に取り込み**増収増益**。輸入青果物や加工食品等を取り扱う**ANAフーズ**はオーストラリア等の販売拡大により**増収**となるも、急激な円安進行やサプライチェーンの乱れ等により費用が増加し、**収益は前年並み**となりました。

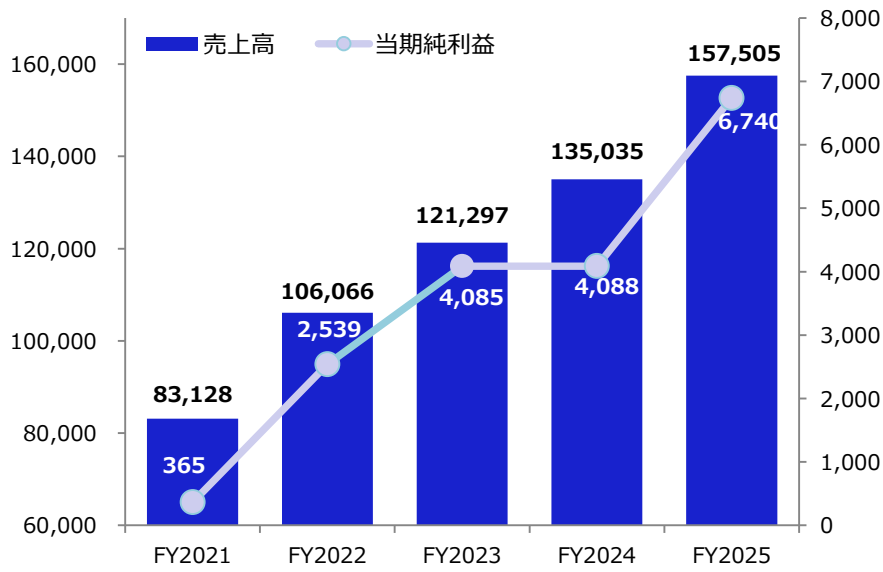
3. 主要財務数値推移

単位：百万円

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
売上高	83,128	106,066	121,297	135,035	157,505
営業利益	498	3,422	4,757	4,709	7,429
経常利益	1,474	3,826	5,936	6,133	9,738
親会社株主に帰属する当期純利益	365	2,539	4,085	4,088	6,740
総資産	60,585	67,345	73,471	80,495	97,467
純資産	31,265	34,557	39,624	42,024	50,992
自己資本比率(%)	51.6	51.3	53.5	51.7	51.7

→売上高・当期純利益推移

単位：百万円



→総資産・純資産推移

単位：百万円

